

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

知的障がい支援学校として、地域や関係機関及び府立とりかい高等支援学校との連携を深める中で、一人ひとりの児童生徒の障がいや発達の状態に応じた、最も必要で適切な教育実践校をめざす。

1 「笑顔きらめく 元気な学校」

基礎的・基本的な事柄を大切に、「わかってうれしい」「できてうれしい」を体感し、達成感を積み上げることで、児童生徒の自己肯定感・自尊感情を育てます。

2 「君の得意を見つけ 伸ばそういいところ」

児童生徒一人ひとりの障がいの状況を的確に把握し、適切な支援を行うため、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、保護者や関係機関と連携し、教育活動を展開します。

3 「つながる心 つなげよう未来へ」

児童生徒会活動を通じ、同年齢・異年齢間の交流を図ります。児童生徒の社会的・職業的自立に向け、小学部段階から個々の発達に応じたキャリア教育を進めます。

2 中期的目標

1 知的障がい支援学校としての専門性向上

(教務部・総務部情報G・支援部・研究・研修部・指導部・保健部・各学部)

(1) 自閉症及び自閉傾向のある児童生徒の授業や学校行事等における様々な指導方法及び家庭支援の在り方について、研修と研究の充実を図り、知的障がい支援学校としての専門性と教師力の向上をめざす。

※ 研究授業を自主的・積極的に行う中、気軽に意見交換し、互いに授業研究(情報機器を活用した授業づくり等)を深めあえる職場環境を構築する。さらに、それぞれが研究した教材については、お互いに共有・活用できる「教材・教具のライブラリー」の充実を図る。

※ 授業力向上に向けて、授業参観週間(1学期)・研究授業週間(2学期)・公開授業週間(3学期)を設定し、保護者・教員及び地域・関係機関のみなさまが積極的に授業見学できる校内体制の充実・定着を図る。中堅教諭・ベテラン教諭の公開研究授業を実施する。性教育の充実を図る。

※ 全国的な研修会を含め、積極的に教職員が研修に参加できる環境整備を図る。研修会参加後は、必ず校内伝達講習を行い、学校力の向上に努める。

(2) 児童生徒たちの人権意識の高揚を図り、自己肯定感、自尊感情を育む。「自己選択する力」「自己決定する力」の育成

※ 「ほめて育てる」教育の実践及び保護者への連絡・連携を密にした「寄り添う教育」の実践し、人権を尊重した安全で安心な教育環境を構築する。

※ SST(ソーシャルスキルトレーニング)等を日々の教育実践に活用し、児童生徒の人権意識・マナー等の高揚を図る。

※ 教職員の人権研修を学期に一度、年3回実施する。初年度から継続して「子どもたちの自己肯定感・自尊感情の育むために」を重点課題とする。

(3) 児童生徒の学部学年を越えた活動及び地域の学校間交流を積極的に実施する。(放課後クラブの充実・発展。クラブ交流の実施。)

※ 児童生徒会活動・行事の活性化を図る。学部間交流(きょうだい学級)を計画的(月中行事に記載)に実施する。ゆるキャラを募集し制作する。

※ 学校間交流、居住地校交流を推進する。小学部は鳥飼小・鳥飼東小・柱本小と、中学部は摂津5中と、高等部は北摂つばさ高等学校と交流を図る。

2 「個別の教育支援計画」の充実及びセンター的機能の発揮

(教務部・支援部・研究・研修部・情報G)

(1) 「個別の教育支援計画」についての理解を深め、その活用を推進するとともに、個々の児童生徒への支援を具体化し、「個別の指導計画」との関連性を深めながら、有効かつ機能的なものへと深化させる。

※ 「個別の指導計画」は前・後期で評価し、保護者に10月・3月に通知(開示)する。その中で個々の児童生徒への支援内容・手だてを明確にし、共通理解を図るとともに、保護者との連携・協力を深める。「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」について保護者対象学習会実施。

(2) 学校の教育目標を具体化し、個々の「個別の教育支援計画」に取り入れ、保護者及び関係機関との連携を図りながら、高等部卒業後の社会自立に向け、総合的かつ継続的な支援ネットワークの定着をめざす。

※ 「個別の教育支援計画」活用リーフレットを全校保護者及び地域の関係機関・進路先に配付し、支援ネットワークの定着をめざす。

(3) 地域支援センター校として、巡回相談や支援教育に関わる情報発信の充実を図り、多種多様なニーズに応える支援体制を確立する。

※ 平成27年度は「支援室」を開室し、地域支援・校内支援の充実を図る。校外向け教材教具ライブラリーの整備。検査機器の充実。

3 小学部から高等部卒業までのキャリア教育を通じた社会的自立の支援

(首席・部主事・進路指導部・教育課程検討委員会・職業コースPT・キャリア教育PT)

(1) 小学部・中学部・高等部において「キャリア発達の観点」を軸に、系統的で一貫した本校独自のキャリア教育プログラムを実践する。

※ 各部の取組みを「学部案内」に記載するとともに、各教科・領域の年間指導計画にキャリア教育(キャリア発達の観点)のねらいを位置づける。

(2) 児童生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、学校周辺地域との連携を深め、知的障がい教育の充実・発展を図る。

※ とりかい高等支援学校との協力・連携に努めながら、互いにキャリア教育の充実・発展を図る。

※ 高等部卒業時の就労率30%以上をめざす。(長期休業期間に高等部教員全員による職場開拓を行い、職場実習先の企業を増やす)

(3) 高等部の生徒にアビリンピックへの参加を促し、実践力の向上を図る。

※ 校内でのジョブリンピックを実施し、生徒のあいさつ運動・清掃・接客マナーの充実を図る。

4 地域に愛され、地域の中で育つ「開かれた学校」の構築

(首席・部主事・総務部・保健部・指導部・高等部職業コース)

(1) ホームページの充実を図ると共に地域向け広報誌を積極的に発行する。(広報誌「きらめき」を月1回発行し、地域自治会に配布する)

※ 地域・関係機関をはじめ、多くの方々に対して、積極的な情報発信に努め、地域に愛される安全で安心な「開かれた学校」をめざす。

(2) 「花いっぱいコミュニティづくり」に取組む。(府茨木土木事務所、府池田土木事務所、摂津市公園みどり課、淀川河川公園管理Gと連携する。)

※ 授業で花苗の栽培に取組むとともに、地域の関係機関とも連携しながら「花いっぱいコミュニティづくり」を積極的に展開する。

※ ひまわりの栽培(「摂津支援から笑顔と元気をとどけようプロジェクト」)を通して、東北や福島など被災地の学校との交流(つながり)を図る。

※ 国営淀川河川公園におけるアドプト(里親)花壇に取組む中で、地域住民のみなさまとの交流を深める。

(3) 「喫茶」「ギャラリー」「陶芸教室」「ガーデニング教室」など保護者、地域のみならず参加できる交流活動に取組む。

※ 接客マナーの実践の場として、喫茶販売実習室を有効に活用する。とりかい高等支援と連携して、「憩いの場(喫茶)」の定着をめざす。

(4) 児童生徒の作品を校外で展示・販売する。(摂津市子どもフェスティバル、淀川わいわいガヤガヤ祭り、モノレール展など)

5 防災をはじめとした危機管理体制の構築

(防災PT・保健部・指導部)

(1) 学校防災計画に基づく避難訓練、防災教育、備蓄品(個人、学校)等の充実及び地域との連携強化を進める。(摂津市の一時避難所指定など)

(2) 児童生徒の安全・安心の充実を図るための危機管理マニュアルを改善する。「ヒヤリハット」事例・改善策を検証し、危機管理マニュアルと連動させる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年12月実施分]	学校協議会からの意見
○児童生徒、保護者、教職員を対象に実施 (提出率)(H26年度) 【保護者】 小学部 80.8%(78.9%) 中学部 80.1%(79.4%) 高等部 63.5%(60.6%) 【児童生徒】 小学部 18.0%(8.0%) 中学部 73.5%(84.1%) 高等部 79.1%(80.1%) 【教職員】 100%(100%) I 結果報告 【保護者】 A・・・よくあてはまる B・・・ややあてはまる C・・・あまりあてはまらない D・・・まったくあてはまらない 全30項目中 A+B 90%台・・・20項目 80%台・・・9項目 60%台・・・1項目 ・昨年度と同様に、肯定的な診断が多数だった ・開校より肯定的な%はアップしている ・A(よくあてはまる)+B(ややあてはまる)の%が落ち込んだ項目はない ○今年度文言を変更した項目について	○第1回(平成27年6月30日) 平成27年度の本校の取組みについて [経営計画について] ・知的障がい支援学校として専門性向上を図るために、授業力の充実をめざしてほしい。 ・授業参観等に保護者もどんどん参加し、感想や要望を学校に出すことが大切。 ・地域支援をお願いする。高校から企業就労した療育手帳保持者の中には、自分の障がいを受容できていない者もいて、学校段階での支援が必要だと感じる。地域支援を通じ、支援学級在籍の児童生徒が、療育手帳更新や福祉サービスの情報等を得て理解していくことが大切。

<教育活動に関すること>

「学校目標」H25、26年度「学校は特色のある教育活動に取り組んでいる」
H27年度「教職員は学校目標の『笑顔きらめく元気な学校・君の得意を見つけ伸ばそういいところ
つながる心つなげよう未来へ』に基づいた教育活動に取り組んでいる」 *%に大きな変化はなかった
⇒保護者は「教職員は、学校目標に基づいた、特色のある教育活動に取り組んでいる」と考えている
「人権を尊重する指導」H25、26年度「教職員は、すべての教育活動において、いじめ防止など子どもの人権を尊重する姿勢で指導にあたっている」
H27年度「学校は、日常の教育活動において、子どもの人権を十分に尊重している」 *%に大きな変化はなかった⇒人権を尊重する指導について教育委員会指定の文言に変更したが、%に変化はなかった

<学校経営に関すること> 昨年度の課題

H25、26年度「学校のホームページをよく見る」
H27年度「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている」 *肯定的な% (A+B) が57%アップ
⇒保護者は「ホームページが情報提供の手段として認識されている」と考えている

○否定的な回答 (C+D) が30%以上の項目

<教育活動に関すること> 「子どもは、積極的に部活動に参加している」(高等部のみ) *否定的な回答 (C+D) が31%
○意見より抜粋「診断項目について『わからない』の欄がほしい 細かい項目、学部別の質問がほしい」
「教員についてのアンケートがあればよい」「言葉や勢いだけの指導ではなく、子どもの人権を尊重する言動に努めてほしい」「子どもの特性に合わせた指導をするために、研修が必要」「個々の能力を伸ばす教育をお願いしたい」「教員同志が連絡を取り合い、適切な指導をお願いしたい」「新任、転任の教員に学校方針など、しっかり伝えてほしい」「教科学習の時間がない、個別指導も取り入れてほしい」「学校の駐車場を使用したい」「学校からの連絡をわかりやすくしてほしい」「居住地交流の際、常に教員のつきそいがほしい」「高等部の規則がわかりにくい」「進路に関する情報を増やしてほしい」「進路に関する三者懇談を実施してほしい」

【児童生徒】生徒用

A・・・よくあてはまる B・・・ややあてはまる C・・・あまりあてはまらない D・・・まったくあてはまらない

全23項目中 A+B 80%台・・・11項目 70%台・・・11項目 50%台・・・1項目

児童用 はい いいえ わからない

全8項目 ・昨年度と同様に肯定的な診断が多かった ・開校より肯定的な%はアップしている

・A(よくあてはまる)+B(ややあてはまる)の%が落ち込んだ項目はない

○新しい項目

「学校目標の『笑顔きらめくげんきな学校・君の得意を見つけ伸ばそういいところ・つながる心つなげよう未来へ』を知っている」 *肯定的な% (A+B) が71% 保護者・教職員と比べやや低い

○昨年度の課題

「環境・国際理解・福祉ボランティアなどについて学習する機会がある」

*昨年度と比べ、肯定的な% (A+B) が25%と大きくアップ Aは25%アップ

⇒中学部・高等部で国際理解教育を推進したため、と思われる

○昨年度の課題 今年度文言を変更した項目

H25、26年度 「学校のホームページをよく見る」

H27年度 「学校のホームページはわかりやすい」

*肯定的な% (A+B) が35%アップ 否定的な回答 (C+D) が依然として42%

⇒生徒が、わかりにくいと感じる箇所を明確にする必要がある

○否定的な回答 (C+D) が30%以上の項目 「担任の先生以外にも、保健室などで気軽に相談できる先生がいる」

*否定的な回答 (C+D) が30% 「近隣の学校や地域の人々との交流の機会がある」

*否定的な回答 (C+D) が30% 「学校のホームページはわかりやすい」

*否定的な回答 (C+D) が42%

○意見より抜粋

「職場体験実習を増やしてほしい」「国際理解教育を増やしてほしい」「調理実習を増やしてほしい」 「クラブの日数を増やしてほしい」「生徒に合った教材教具を作って理解しやすくしてほしい」 「先生がもっと生徒おもしろくなってほしい」「電球を明るくしてほしい」「更衣室に暖房やクーラーをつけてほしい」「給食に、にしんそば、からあげ、焼肉、ポテトグラタン、とんかつラーメン、ジュースなど出してほしい サラダ、ジョアを減らしてほしい 麺類、カレーライス、ハンバーグを出してほしい パンにジャムを、ごはんにふりかけをつけてほしい」

【教職員】A・・・よくあてはまる B・・・ややあてはまる C・・・あまりあてはまらない D・・・まったくあてはまらない

全52項目中 A+B 90%台・・・26項目 80%台・・・14項目 70%台・・・9項目 60台・・・3項目

・昨年度と同様に、肯定的な診断が多数だった・開校より肯定的な%はアップしている

○昨年度の課題

<学校経営に関すること> 「清掃活動がいきとどいている」

*肯定的な% (A+B) が15%アップ 否定的な回答 (C+D) が依然として31%⇒外部の方の清掃参加や、教員の指導のもと、児童生徒が積極的に清掃活動に取り組んだ成果と思われる

○新しい項目

<教育活動に関すること> 「学校目標である『笑顔きらめくげんきな学校・君の得意を見つけ伸ばそういいところ・つながる心つなげよう未来へ』に基づいた教育活動を展開している」

*肯定的な% (A+B) が93%で、「児童生徒や保護者の意見・願いに応えるように、障がいの重度・重複化・多様化に対応した教育活動を展開している」とほぼ同じ% ⇒教職員は、学校目標を意識して教育活動を展開している

○昨年度より%が高くなった項目

<教育活動に関すること> 「給食の食材や献立は、配慮・工夫されている」

*昨年度より肯定的な% (A+B) が11%アップ Aは20%アップ ⇒栄養士による献立等の工夫や食育の成果と思われる

○昨年度より%が低くなった項目

<学校経営に関すること> 「校長は自らの教育理念や学校経営についての考え方を明らかにし、学校運営に、校長のリーダーシップが発揮されている」 *肯定的な% (A+B) が14%ダウンAは36%ダウン

○否定的な回答 (C+D) が30%以上の項目

<学校経営に関すること> 「この学校では、児童生徒の生活の場として、ゆとりと潤いのある教育環境が整備されている」 *C+Dが32% 「清掃活動がゆきとどいている」 *C+Dが31% 「各教科の備品や教材教具が適切に配置され、活用されている」 *C+Dが37% 「教職員はPTA活動に参加している」 *C+Dが44%

○意見より抜粋

「児童生徒のケースや、保護者対応方法などをテーマに、学部で話し合う機会を設けることが必要」 「初任者以外で事例検討や授業研究を行う機会があると、経験の少ない教員の参考になる」 「実践報告会のようなものがあると教員全体のスキルアップにつながる」「高等部で、子どもの知的発達の幅が広がっているため、実態にあった教育課程の修正をしていく時期にある」「全校行事前に特別時間割を組んでほしい」「児童生徒の他学年・他学部生徒の交流はとてよいため続けていきたい、また数も増やすとよい」「生徒達が卒業後に向けて、生活に困ることが少しでも減るよう、教員が見本となるよう服装、マナー、挨拶、日常生活を、生徒の前ではどの学部の人も気を付けてほしい」

【保護者・児童生徒・教職員の横断的比較】

○比較した項目

<教育活動に関すること> 「教育活動」「学校目標」「評価」「相談」「人権」「進路」「行事」「給食」

<学校経営に関すること> 「学校長」「施設設備」「防災」「保護者参加」「交流」「ホームページ」

[進路について]

・就職後のアフターケアをしっかりとお願いしたい。

・就労後、生活リズムが乱れて仕事を辞めるケースが多い。卒業後、学校から社会への引継ぎがスムーズにいくようなシステムづくりが必要である。また福祉サービス未利用者が、今後どう利用していくのかも大切なことである。

○第2回(平成27年11月6日)

[学校経営計画の進捗状況について]

・年度末に達成状況がどう変わっていくかが重要。△が○になる要素があるのか、また○の項目も◎になるように、今後努力できるところは引き続きやっていただきたい。

[教員研修について]

・研修の内容により、人の集まりにも変化がある。より一層の工夫が必要である。

[学校教育自己診断について]

・新たに加えた学校目標の項目はよい。年度ごとの見直しも必要だが、以前との比較ができなくなるので、毎年継続し経年変化を知ること大切なことである。

・自己診断は、保護者がやりやすい方法・回答しやすい方法でしていただきたい。・自己診断の結果を踏まえ、充実した教育活動になるよう活用をお願いする。

○第3回(平成28年2月24日)

[学校教育自己診断の結果報告]

・教員のPTA活動への参加の件。教職員が参加できる行事が少ない。協力という形であれば様々なことで多くしていただいている。

・全体的に肯定的な意見が多い。今後、さらにA+Bが90%の「Aは?Bは?どうか」とそれぞれに分析していただきたい。ご意見にふりまわされることはないが、書かれている方の思いは強い。きびしい意見に対しては強く意識していかなければならない。

[体罰防止のための取り組み]

・改善項目は努力が見られる。課題が残る項目は個々の思いだけでは改善できない。

・ヒヤリハットは製造業としてはひじょうに大事な項目。項目を改善していくことが大切。

・全ての項目を○にすることが目標。数値が高い項目については今後も取り組んでいく必要がある。

[防災PTの取り組み]

・本校は一時避難所として地元との関係が強くなる。

・高槻市はブロックごとに防災訓練を行っている。柱本では自主防災組織を作っている。摂津市は淀川があるので水害が心配。

・今後、高槻市とも話をしていく必要がある。本校は境界にあるので検討必要。

・地域との連携が大事。摂津市でも防災組織がある。そことも一度話をされる方がよい。

[今年度の総括及び次年度の学校経営計画策定に向けて]

・ゆるキャラがなくなったのは残念。予算が必要なところはPTAが協力します。

・校長1年目とあって力が発揮しにくかったところもあったかと思いますが、開校4年目に向けて学校経営に取り組んでいただきたい。

[進路状況について]

・未定の生徒が気になる。就労率高いが今後退職せずに続くのか?1年後、3年後が重要。

・先は長いので、本人が幸せであってほしい。Q:卒業生のフォローは学校としてされているのか?個人でされているのか?就ボツとの連携はどうされているのか?

A:学校として取り組んでいる。就ボツと引き継いで終わりではない。夏休みに元担任アフターに行く。徐々に就ボツさんにハトタッチしていく。卒業生が相談にくることがあるので、それぞれに対応している。

・大きな課題である。春に30名以上就労。いきなり登録と引継ぎがある。スムーズなハトタッチは現実的に難しい。1年目は教員の協力を得ている。

・就ボツの事業は雇用保険をかけている人の事業である。高等部生徒は支援の対象ではないという通達が厚労相からきている。卒業し

○新しい項目について
 「学校目標」に関すること 保護者 「教職員は学校目標の『笑顔きらめく元気な学校・君の得意を見つけ伸ばそういいところ・つながる心つなげよう未来へ』に基づいた教育活動に取り組んでいる」⇒A+Bが94% 児童生徒「学校目標の『笑顔きらめくげんきな学校・君の得意を見つけ伸ばそういいところ・つながる心つなげよう未来へ』を知っている」⇒A+Bが71% 教職員 「学校目標である『笑顔きらめくげんきな学校・君の得意を見つけ伸ばそういいところ・つながる心つなげよう未来へ』に基づいた教育活動を展開している」⇒A+Bが93%

○昨年度、差が顕著だった項目
 「教育活動」に関すること
 保護者 「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。」⇒A+Bが88%
 児童生徒「学校へ行くのが楽しい。」⇒A+Bが77%
 教職員 「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。」⇒A+Bが96% 肯定的な%(A+B)・・・保護者・教職員⇒高い 児童生徒⇒やや低い 昨年度と同様

「評価」に関すること
 保護者 「子どもの学習の達成度が適切に評価されている。」⇒A+Bが92%
 児童生徒「努力が認められた評価が行われ、学習の評価については納得できる。」⇒A+Bが79%
 教職員 「年間の学習指導計画や評価のあり方について、学部、学年、教科、学習グループで話し合っている。」⇒A+Bが84%児童生徒の肯定的な%(A+B)が昨年度より14%アップ

「相談」に関すること
 保護者 「学校は、子どものことについて保護者の悩みや相談に適宜応じてくれる。」⇒A+Bが92%
 生徒 「先生は問題を見逃さず考えてくれ、相談しやすい。」⇒A+Bが82%
 児童 「先生には自分の気持ちを言ったり、相談したりできる。」⇒はいが71%
 教職員 「カウンセリングマインドを取り入れた生活指導を行っている。」⇒A+Bが76%
 肯定的な%(A+B)・・・保護者⇒高い 昨年度とほぼ同様

○昨年と比べて肯定的な%がアップした項目
 「給食」に関すること
 保護者 「給食の食材や献立は、配慮・工夫されている」⇒A+Bは昨年度とほぼ同様
 児童生徒「給食の献立は、よく考えられている」⇒A+Bが昨年度より16%アップ
 教職員 「給食の食材や献立は、配慮・工夫されている」A+Bが昨年度より11%アップ(Aは20%アップ)栄養士による献立等の工夫や食育の成果と思われる

○今年度文言を変更した項目
 「ホームページ」に関すること
 保護者「情報提供の手段として、ホームページが活用されている」⇒A+Bが昨年度より57%アップ
 児童生徒「学校のホームページはわかりやすい」⇒A+Bが昨年度より35%アップ
 教職員「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている」⇒A+Bは昨年度とほぼ同様
 保護者と教職員は、ほぼ同様の%
 児童生徒は肯定的な%がアップしたが、否定的な%(C+D)は42%

II 昨年度の課題
 ○今年度、新たに加えた「学校目標」の項目について
 肯定的な%(A+B) 保護者94% 児童生徒71% 教職員93%

○肯定的な診断が特に低い項目について
 ・「環境・国際理解・福祉ボランティアなどについての学習」については、中学部・高等部で国際理解教育を推進したため肯定的な%がアップしたと思われる
 ・「清掃」については、外部の方の清掃参加や教職員が児童生徒に働きかけて清掃活動を推進したため、肯定的な%がアップしたと思われる
 ・「ホームページ」については、保護者の文言を『よく見る』から『情報手段として活用されている』に、児童生徒の文言を『よく見る』から『わかりやすい』に変更した結果、肯定的な%はアップしたが、児童生徒の肯定的な%がやや低い

III まとめ
 ○「肯定的な%3年間の比較」から、肯定的な回答(A+B)の%は保護者・児童生徒・教職員ともにH25年度⇒H26年度⇒H27年度と高くなっている
 ○今後は、否定的な回答が多い項目を中心に検討し、改善が必要な点について取り組む必要がある

IV 今後の課題(来年度の実施に向けて)
 ○否定的な回答(C+D)が30%以上の項目について
 ・「部活動」について⇒部活動の実態に合致するよう、質問の文言の検討等を行う
 ・「担任以外の相談」について⇒支援部で児童生徒対象の相談等を検討していく
 ・「交流」「清掃」について⇒前年度より肯定的な%はアップしている 今後も継続して取り組む
 ・「ホームページ」について⇒今年度文言を変更した保護者・児童生徒の肯定的な%は大きくアップしたが、生徒の否定的な回答が42%と依然として高いため、生徒対象にアンケートを実施し、生徒がわかりにくいと感じる箇所を明確にして、検討していく
 ・「ゆとりと潤いのある教育環境」「教材教具の充実」⇒H25年度からH26年度は肯定的な%はアップした H26年度とH27年度の肯定的な%は、ほぼ同じ⇒今後の課題である
 ・「PTA活動への参加」⇒質問の文言を「参加」から「協力」に変更し、PTA活動に対する教職員の意識を調べる等検討していく

てから登録しなさいということである。
 ・今年度から北摂地域で集まって会議をし、情報交換をしている。その中で登録のタイミングをシステム化、統一していきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
知的障がい支援学校としての専門性向上	(1)教員一人ひとりの授業力を高める。 ア 保護者との連携 イ 授業研究及び研究授業の充実	ア 定期的な授業参観・懇談会を行い、保護者との連携を深め、学校が情報や意見の交換の場となるよう「開かれた学校」をめざす。 イ 中堅・ベテラン教員が研究授業を行い、広く公開する。初任者は、年2回以上の研究授業を行う。(外部人材による助言・指導・評価)	ア 定期的な授業参観及び授業参観週間を行い、その度に授業アンケートを実施し、参観参加者数・回収率等を検証する。 イ 研究授業週間、公開授業週間を(9月・2月の時期に2回)実施し、その効果を検証する。外部人材から評価を受ける。	(1)授業参観・懇談会は予定通り実施。公開授業週間は9月に内部向けを実施、2月は外部向けを実施し、100名を超える来校者があった。→○
	(2)児童生徒たちの人権意識の高揚を図り、自己肯定感、自尊感情を育む。 ウ 作品展示の充実 エ 教材教具の充実	ウ 「ほめて育てる教育」を実践する。児童生徒作品(絵画・陶芸・さおり・花等)を校内に展示し、子どもたちの活動を肌で感じる学校づくりに取り組む。 エ 教材研究を積極的にを行い、共用・活用できる職場環境を構築する。	ウ 校内の色々なところに展示ブースを設け、児童生徒の作品を展示する。 エ 教材教具のライブラリー化を図る。学校教育自己診断で検証。	(2)作品は廊下やホール等に随時展示。またモルル展など外部での展示も実施。教材教具は教職員ネットワークや教材室を活用。教材教具についての自己診断では肯定的意見が60%から63%にアップした→○

	(3)児童生徒が学部学年の枠を越えた活動を実施する。 オ 交流活動の充実	オ 同年齢・異年齢の交流活動の推進を図る。 ・全校あげての児童生徒会活動に取組む。 ・学部間交流、学校間交流、居住地校交流に積極的に取組む。	オ・全校交流会を実施状況。(回数) ・交流授業(きょうだい学年)を毎学期実施する。 ・ゆるキャラの募集・制作。 ・居住地校交流の充実。(10回以上実施)	(3)きょうだい学年を実施し、交流を図っている。居住地校交流は6回にとどまった。ゆるキャラの募集・制作は実施せず。 →△
「個別の教育支援計画」の充実及びセンター的機能の発揮	(1)「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」との関連性を深め、個々の児童生徒への支援を具現化する。 (2)「個別の教育支援計画」をツールに、保護者及び関係機関との連携を図り、高等部卒業後の社会自立に向け、継続的な支援ネットワークの定着をめざす。 (3)地域支援センター校としての役割 ア 本校支援室の機能充実 イ インクルーシブ教育の推進 (4)校内支援体制の充実	(1)「個別の教育支援計画」の作成において、保護者との連携を深め、「個別の指導計画」と関連させながら、支援内容・手だてを明確にし、児童生徒が主体的に自立していけるよう指導・支援していく。 (2)-1「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」について保護者の理解を高め、その活用を促す。 (2)-2「個別の教育支援計画」の活用リーフレットを新入生保護者及び地域の関係機関、進路先に配付し、継続的な支援ネットワークの定着を図る。高等部卒業後の「個別の教育移行支援計画」としての機能を果たしているか調査する。 ア 支援方法等について研修・研鑽を深め、支援できる教員の育成を図る。 イ 摂津市の小・中学校の巡回指導の徹底と支援活動の充実を図る。支援室の機能充実を図る。インクルーシブ教育の推進のため、市教育委員会との連携を深める。 (4)-1 校内ケース会議の充実を図り、関係機関との連携を深めながら、効果的な支援に繋げる。 (4)-2 本校児童生徒の発達検査等を充実させ、課題設定・手だてに反映させる。	(1)「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」は、本人・保護者のニーズを踏まえて作成されているかどうかの肯定率90%をめざす。 (2)-1「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の保護者対象学習会を実施する。年間2回(1学期、2学期)実施。 (2)-2「個別の教育支援計画」活用リーフレットを配付し、有効な支援ツールとしての活用率を高める。高等部卒業後にどの程度活用されているかのアンケート調査を実施し、その結果をもとに「支援ネットワークの構築」につなげる。 ア 支援室からの発信(研修、支援室だより等)により、校内教員の支援力向上を推進できたか。 イ 巡回指導や支援活動を積極的に展開する中、支援室としての機能を十分に果たせたか。支援担当教員を2人育成する。 (4)-1 校内ケース会議の内容・回数・考察によりその効果を検証。 (4)-2 発達検査等の結果・検証等を「個別の指導計画」の課題設定・手だてに反映できたか。	(1)「個別の教育支援計画」は本人・保護者のニーズを丁寧に確認し、「個別の指導計画」との関連性を意識しつつ進めている。保護者対象自己診断の肯定率は97%と高い水準を維持できた。 →◎ (2)-1 保護者のニーズを受け、福祉サービス等をテーマに、関係機関と連携して保護者対象福祉学習会を実施。 →○ (2)-2 リーフレットを配付し出身校・園から本校への引継ぎ率は96%を越えた。「個別の教育支援計画」活用のアンケートは実施しなかったが、「個別の移行支援計画」を策定し、「支援ネットワークの構築」につなげた。 →○ (3)支援室からの発信(研修、支援室だより等)により、校内教員の支援力向上に努めている。来年度摂津市主催の支援教育研修に企画段階から参画させていただくことになり、巡回相談の件数も増えつつある。 →○ (4)-1 担任からの要請により校内ケース会議を実施し、児童生徒の支援について共通認識を深めている。 →○ (4)-2 KIDS、SM 社会生活能力検査等の結果を踏まえて「個別の指導計画」の目標を設定している。 →○
小学部から高等部までのキャリア教育の充実	(1)各部署で実践しているキャリア発達の観点を整理し、教育課程に位置づける。 ア キャリア教育を柱にした教育課程の編成 イ 高等部卒業生の適切な進路選択・決定を図る。 ウ 職場開拓及び実習先の充実。 エ アビリンピックへの参加を促進	ア キャリア教育PTを中心として、キャリア発達の観点を整理し、小・中・高において系統的で一貫したキャリア教育を実践する。 イ 高等部卒業生一人ひとりの特性に応じた適切な進路選択・決定を図る中で、より高い就労率をめざす。 ウ 教員一人ひとりが、積極的に企業開拓を行い、実習先の拡大を図るとともに、将来的には雇用を前提とした企業開拓をめざす。 エ 校内ジョブリンピックの充実を図り、自己肯定感を育むことで、アビリンピックへとつなげていく。また、接客マナーで学んだことを実践に活かすため、とりかひ高等支援と連携を図りながら、喫茶販売実習室を有効に活用する。	ア 各教科・領域の年間指導計画にキャリア教育のねらいを位置づけることができたか。各部署における「キャリア」の取り組み状況を検証し、効果検証の定点観測の方法等を検討する。 イ 高等部卒業学年の企業就労率30%以上をめざす。福祉就労を含め100%のマッチングをめざす。 ウ 高等部教員全員で企業開拓に取り組み、新規の就労先3~5社を探す。 エ 校内ジョブリンピックの成果を活かす場を意図的に設定する。また実践を通じて自信をもたせることで、アビリンピックへの参加生徒(高等部2.3年)を増加する。(10名以上)	ア キャリア教育PTにより各部署にキャリアの視点が位置づけられ、一貫した指導(挨拶・清掃)が実践されている。 →○ イ 個々に応じた丁寧な進路指導を実践し、企業就労は12名、33.3%(現在値)。 →◎ ウ 4日間実施。就労見込みがある企業5社、実習受入れ企業2社を新たに開拓した。 →○ エ アビリンピック参加生徒は4名にとどまった。(接客部門金賞2名・清掃部門銀賞1名、銅賞1名) →△
「開かれた学校」の構築	(1)ホームページの充実 (2)「花いっぱい」活動の充実・発展 (3)保護者や地域のみなさんに愛される学校をめざす。 (4)児童生徒の作品等を地域に広める。	(1)学校の最新の情報発信に努めると共に、地域向け広報誌「きらめき」を積極的に発行する。 (2)地域の関係機関と連携し、「花いっぱいのコミュニティづくり」に取組む。 (3)とりかひ高等支援と連携を図りながら、「喫茶」「ギャラリー」「陶芸教室」など、保護者や地域のみなさまに参加いただける交流活動に取組む。 (4)地域のイベントに積極的に参加し、地域のみなさまに児童生徒の作品や接客場面等を見ていただける場面を増やしていく。	(1)ブログ、ホームページ等を行事終了ごとに更新できたか。広報誌「きらめき」を月1回定期的に発行できたか。 (2)校内・校外での植栽活動の実施できたか。校外(摂津市役所前花壇等)は年2回。校内は全学部でのひまわり栽培を実施できたか。 (3)保護者や地域の方々を交えての交流活動を実施できたか。陶芸教室が実施できたか。 (4)イベントごとにアンケートを実施し、地域のみなさまからの感想等をもとに検証する。「ワイワイがやがや」及び「摂津市子どもフェスティバル」でアンケートを実施し、感想を検証できたか。	(1)ブログ更新中。HPリニューアルを企画。「きらめき」発行中。 →○ (2)校外(摂津市役所前花壇)の2回は実施。校内においてはひまわりだけでなく、季節に合わせた花を植えた。 →◎ (3)学校祭に鳥飼高等学校同窓会を招待するなど地域に開放した。陶芸教室は2回実施し、盛況であった。 →○ (4)イベントへの参加はできたが、アンケートの実施には至らなかった。 →△
危機管理体制の構築	(1)学校防災計画の充実と地域との連携強化 (2)危機管理マニュアルの充実	(1)-1 学校防災計画に基づく、避難訓練、防災教育、備蓄品管理、実際を想定して個人備蓄品の試食等、防災に対する教職員・児童生徒・保護者の意識向上を図る。 (1)-2 摂津市防災管財課と連携し、一時避難所として協定書を交わし、地域周辺の一時避難所としての役割を明確にする。 (2)児童生徒の安全に関わる全ての「危機管理マニュアル」を点検・見直しを行い、危機管理体制の強化を図る。	(1)-1 様々な事態を想定した避難訓練、防災教育等が実施できたかを検証する。学校防災計画に沿った避難訓練、防災教育が実施できたか。 (1)-2 一時避難所としての機能がスムーズに発揮できるように摂津市との連携協議を進め、具体的な課題等が整理されたか。 (2)ヒヤリハット事例と改善策を、危機管理マニュアルに連動させることができたか。	(1)学校防災計画に沿った避難訓練・防災教育ができています。また、避難場所、鍵の問題等具体的な課題について整理され、一時避難所としての協議は最終段階である。 →○ (2)ヒヤリハット事例については、即座に共通理解を図り、危機管理マニュアルとの連動に努めている。 →○